

教育のつどい

YAMANASHI 2023 秋のつどい

～考え合おう、子ども・若者、教育の「今」と「可能性」～

「教育のつどいYAMANASHI」は、子ども・若者と教育に関心を持つ人びとの「集いあいの場」です。

どなたでも参加できます。(無料)

講演

出会いは
夕かえり

2023年11月
25日[土]
受付 12:30～

子どもたちから教えられたことばかり

講師: 佐藤比呂二さん(都留文科大学特任教授)

会場: ピュア総合

〒400-0862

山梨県甲府市朝気 1-2-2

☎055-235-4171

<コロナ蔓延等で会場閉館時は中止します>

*発熱等、体調の悪い方のご来場はお控えください。



主催: 教育のつどいYAMANASHI 2023実行委員会

後援: 山梨県教育委員会、山梨日日新聞社・山梨放送、テレビ山梨

問い合わせ先: ☎055(222)4828 / FAX055(222)4829

山梨県高等学校・障害児学校教職員組合 / nashikou@nns.ne.jp

「コロナ禍」後の教育は後戻りではなく新しい教育を探がしていくことだと考えてきました。しかし、学校や社会のいきぐるしは以前より増大しています。そのことが、不登校や子どもの自殺などにも関係しているのではないでしょうか。今、学校の教員をはじめとした子どもに関わる人たち自身が楽しく取り組むことが、そうしたことのできる環境づくりも含め極めて大切ではないでしょうか。佐藤比呂二さんの「まずは教師が楽しむ」「子ども・若者から学ぶ」そうした姿とその根源にあるお考えをお聴きする中で、学校や子どもの世界について県内の皆で考え合う集会にしていきたいと構想しています。

「出会いはタカラモノ」(全障研出版部)から・・・一部紹介

- ◆大吉君：幼いころから激しい自傷を繰り返してきた大吉君・・・両手をつないでほしいと求めてきたとき、私はいつでも応じてつないであげました。・・・給食の時にも変化がみられました。先に食べ終わると、両手を離すようになったのです。私をじっと見つめながら、手にコップを持っています。・・・手を離すと自分で決め、不安と闘いながら自分を支える大吉君の姿は、ねがいによって子どもは変わるということを教えてくれています。
- ◆匠太郎君：復学したのに、1年後の高3の夏、最初の再発が匠太郎君を襲いました。・・・その数日後に入院してきた姿は見事でした。入院中の高校生たち全員に声をかけ、みんなをつなぎ仲間に巻き込んでいったのです。・・・院内学級の役割について次のように語りました。「・・・『病気になる前の自分』と『病気になった後の自分』とをつなぐ役割が大きい。そして、不安定になったメンタルを回復する以上にいかに成長させることができるかを課題として考えてほしい。」彼の思いを実現する場を広げていかなければいけません。

<日程> **2023.11.25[土]**

受付12:30～ 全体会12:50～13:00

講演13:00～14:30 移動 14:30～14:40

分科会 14:40～16:30

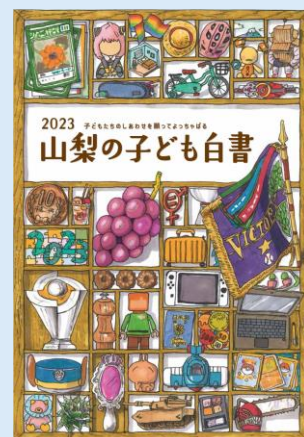
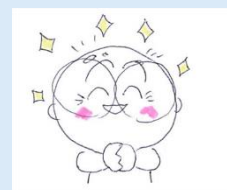
高校教育分科会、障害児教育分科会、実習教育分科会

子ども・若者,学校をみんなで考える分科会

<「山梨の子ども白書」交流会を兼ねます>

執筆者+参加者で山梨の子ども・若者,学校を考え

合いましょう！ どなたでも参加いただけます。(無料)



佐藤比呂二(さとうひろじ)さんの紹介

東京都立特別支援学校で知的障害教育と病弱教育に携わる。

現在、都留文科大学学校教育学科特任教授。

時々マジシャンになる。(芸名:ボブチャンチンさとう)

おもな著書『出会いはタカラモノ』(全国障害者問題研究会出版)

『自閉症児が変わるとき』(群青社)

